

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F115110105046
	大学等名1(代表大学等) 学校本部所在地	新潟県
	大学等名1(代表大学等) 学校種別	国立大学
	科目名	先端的国際マーケット・グループワーク・インターンシップA
	学部・研究科等名	工学部
	担当教職員名・役職	上田和孝・准教授
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	1
	受入企業等数	1
	受入企業等名	https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/contents/internship/sponsor.html
	産学協議会の整理上の類型	3.タイプ3(汎用的能力活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	1.長期(概ね1か月以上)のキャリア形成支援活動 3.海外でのキャリア形成支援活動 7.高学年(大学3年次~4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 9.大企業・グローバル企業でのキャリア形成支援活動 10.中小企業でのキャリア形成支援活動 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動
	上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	地域創生課題の解決能力と融合的視点をもつ実践的な理工系グローバル・リーダー人材の育成を目的として、留学生とホスト大学生が学年縦断・分野横断・多国籍の理工系学生グループを形成して、新潟地域企業等の協働支援による課題解決型の国際グループワークインターンシップに取り組んだ。本科目は主に先端的専門知識を基礎として企業が目指す市場・社会の特性と動向の調査学習を基礎とした現地市場調査型(マーケット型)のインターンシップである。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	3.当該キャリア形成支援活動は、専門教育科目として実施している 6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学院 修士1年 大学院 修士2年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学院 3単位

項目	確認事項	届出内容
	2-5.上記回答内容に関する詳細	本科目は、自然科学研究科の正規の選択科目であり、大学間協定に基づいたメコン諸国大学との双方向留学交流プログラムを修了するにあたっては必修の科目である。また、留学期間内において事前に指定された期間で実施した。
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	<p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p>
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	<p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p> <p>2.報告会等により、インターンシップ等の就業体験の成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている</p> <p>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている</p>
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	学生とは、インターンシップ中において、常時Slackにより、実施状況を確認できる体制を取った。また、適宜、学生あるいは受け入れ企業とメールやオンラインミーティングにより、教員と情報交換を行った。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習・マナー講習 ・海外渡航前安全管理オリエンテーション ・受入企業の調べ学習 ・JASSO様式アンケート(社会人基礎力対応項目を含む)
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・JASSO様式アンケート(社会人基礎力対応項目を含む) ・発表会のパワーポイント作成と提出 ・企業での発表会の実施 ・学内での成果発表会の実施 ・振り返り学習の実施 ・学生の声(インターンシップを行った上での報告レポート)
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	適宜、学生あるいは受け入れ企業とメールやオンラインミーティングにより、問題が生じていた場合の解消や、インターンシップの内容の充実を図った。
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	<p>1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている</p> <p>2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、キャリア形成支援活動の実施前後で回答を求めている</p> <p>3.キャリア形成支援活動による到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している</p>
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	

項目	確認事項	届出内容
	4-3.上記回答内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ前後のJASSO様式アンケート(社会人基礎力対応項目等の到達度のルーブリック評価)の分析 ・振り返り学習(インターンシップ参加で獲得した最も重要な変化を自己評価)の分析 ・学内最終成果発表会での参加教員による発表内容評価の分析 ・企業担当者が作成した評価書(多項目のルーブリック評価と所見)の記載内容の分析 ・学生の声(学び内容と、その位置づけなどを含むレポート)の分析
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	実施期間約1ヶ月間
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	企業でのインターンシップ実施期間(約1ヶ月)の前後に、事前および事後学習を行った。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・企業に学習設計シート(課題と背景、スケジュール等)の事前作成を依頼し、それを基に事前学習することにより、企業協働を深めた。 ・事前学習やモニタリング等により、大学が企業担当者による学生指導を支援。 ・企業による学生評価書(多項目ルーブリック評価と所見)を、成績評価項目の一部に含め、教育の質保証を行った。 ・企業に事後評価や面談等によるフィードバックを得て、次年度に向けた改善に取り組んだ。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.niigata-u.ac.jp/syllabusHtml/2023/28/28_230F5210_ia_JP.html
問い合わせ先	大学等名	新潟大学
	担当部署名	工学部附属工学力教育センター国際教育部門
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	馬場 暁
	電話番号	025-262-7369
	メールアドレス	g-dorm@eng.niigata-u.ac.jp